

令和3年度 浜松市博物館事業評価

はじめに

浜松市博物館では、図1のとおり、博物館の使命（ミッション）を「浜松市域の文化の継承と創造」として、3つの中短期目標を定めた上で、それらを実現していくために必要な戦略指標を6つに分類して設定している。

その戦略指標の達成状況を測るための事業評価については、令和2年度（令和元年度の事業評価）から実施しており、今回は令和3年度の事業評価について掲載するが、一部の評価項目や基準等の見直しを行っている。

1. 事業評価の経過

評価シートの作成と自己評価 1～5の戦略指標ごとに定量的評価と定性的評価の項目を定めた評価シートを作成した。

定量的評価については各評価項目に目標値と実績値を示し、定性的評価については各評価項目をA～Eの5段階で自己判定した上で、自己評価を記載した。

博物館協議会による評価 浜松市博物館協議会の席上において、令和3年度の事業報告と併せて上記の評価シートを提示し、各委員に定性的評価のA～Eの5段階判定を依頼するとともに、各評価に対する意見を求めた。

今後の方策の検討 自己評価と博物館協議会委員による評価・意見等を踏まえて、今後の事業の改善策や新たな取り組みについて検討した。



図1 浜松市博物館運営についての考え方

2. 事業評価の結果

指標 1 資料収集と保管・活用

【定量的評価】

No.	内容	単位	R3 目標	R1 実績	R2 実績	R3 実績	考え方・基準・内容等
1	新規受入資料件数	件	20	49	38	27	当該年度の受入件数
2	収蔵資料台帳のデジタル化件数	件	83,737	81,560	82,737	85,555	年度末におけるデジタル台帳の累計登録件数 (中期目標：R7年度100,000件)
3	新規受入資料の展示公開率	%	70	-	-	31	当該年度とその前年度の受入資料件数のうち、 展示公開した件数の比率【新規設定】
4	収蔵品オンライン検索システム公開件数	件	12,000	11,821	11,971	11,992	年度末時点における累計公開件数 (中期目標：R7年度12,500件)
5	収蔵庫点検・清掃回数	件	12	-	-	12	温湿度等環境の点検及び清掃の回数【新規設定】
6	資料事故発生件数	件	0	0	0	6	資料の紛失、破損、汚損等の件数

【定性的評価】

No.	評価項目	R3 自己	R3 委員	判断基準
1	計画的な資料収集が行われている。	A	B8人	資料収集方針・資料購入基準に基づいている。
		B		現状の収蔵環境を踏まえて、収集検討会議により受入を決定している。
		B		資料購入評価会構成員を予め想定し、すぐに対応できるようにしている。
2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。	B	C4人 D4人	資料管理のフローチャートが運用されている。
		B		収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。
		D		資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実に行われている。
		C		全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。	C	C4人 D4人	収蔵庫の温湿度計測を常に行い、必要な措置を講じている。
		D		全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。
4	収蔵資料の活用と見直しが図られている。	B	B3人 C5人	全ての収蔵施設の資料を把握し、将来的な再配置方針が検討されている。
		C		デジタルデータの公開活用が推進されている。
		A		未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。
				他館への資料貸出や画像提供、資料熟覧への対応が適切に行われている。

【自己評価】

- 資料の収集については、収集検討会議が口頭で行われているため、後の時代に受入れ理由などが伝えられない。
- 資料の保管については、収蔵庫の飽和状態が進んでおり、本来の位置にない資料も多く、資料の所在不明も判明した。また、未調査資料や、収蔵経緯・履歴が不明な資料が存在する。なお、本館以外の収蔵施設は環境や保安の面で課題を抱えるが、遠隔地で資料の状況を頻りに把握できない面がある。
- 資料の活用については、デジタル化推進や外部利用対応は進められているが、新規受入資料の公開は進んでいない。

【博物館協議会委員の主な意見・評価】

- 所在不明の資料があることは大きな問題である。全ての所蔵資料の把握を進めるとともに、資料は本来の位置へ戻すことを徹底してほしい。
- 所蔵資料のデジタル台帳の早急な整備が必要である。
- 収集の目的や過程の記録は、研究資料と同様かつ同等の意味があるのでしっかり作成・保管をしてほしい。
- 新規受入資料の展示公開は、調査や修理が必要な場合もあるので、評価項目としての妥当性に検討を要する。
- 収蔵庫が飽和状態の中で、将来にわたって全ての収蔵資料を保管し続けていくのか検討が必要である。
- 資料のデジタル化とオンラインでの公開を進めるとともに、検索や閲覧の利便性を高めてほしい。

【今後の方策】

- 資料の収集については、限られた収蔵スペースの中で有効な収集を行うため、収集検討会議を強化して記録を残すこととし、系統立った所蔵資料の選定を行っていく。
- 資料の管理については、収蔵庫内の再整理や資料点検を強化し、その結果をデジタル台帳や配架表に反映させる中で、資料情報の充実と集約を図る。また、市内に分散する収蔵施設についても定期的に巡回確認を行うことで適正な管理に努め、将来的には地域性に加えて資料の重要度や材質、劣化状況などによる収蔵資料の仕分けを全体的に行い、適切な物品管理体制を構築していく。
- 資料の活用については、上記の収蔵庫再整理・資料点検を行う中で、所蔵資料の活用に向けた情報を収集し、オンラインでの公開などを推進していく。

指標 2 調査研究

【定量的評価】

No.	内容	単位	R3 目標	R1 実績	R2 実績	R3 実績	考え方・基準・内容等
1	学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数	件	15	-	-	12	当館学芸員による講師件数。出前講座は含む。連続講座は1回。【新規設定】
2	学芸員の学術的著述の本数	本	3	-	-	3	館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。【新規設定】
3	学芸員が調査に出向いた件数	件	15	-	-	24	外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査は1件。【新規設定】
4	他機関と連携した調査研究の件数	件	6	-	-	6	大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない。【内容修正】

【定性的評価】

No.	評価項目	R3 自己	R3 委員	考え方・判断基準等
1	市役所の組織の中で、博物館が調査研究施設として位置づけられている。	C	C6人 D2人	調査研究とその他業務における適切な業務量のバランス配分と役割分担がされている。
2	調査研究の環境が保たれている。	D	B1人 C4人 D3人	調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている。
		C		調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。
		B		調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保されている。
3	博物館が市民や外部組織等から調査研究施設として位置づけられている。	C	B3人 C5人	設定されたテーマに基づいた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。
		B		学芸員が外部機関との共同研究に参画している。

【自己評価】

- ・学芸員が事務・調整的な業務等も抱え、物理的な調査研究スペースも少ない中で、調査研究活動への比重は低い。成果を示す場である講座や学術的著述はやや低調であったが、資料の現地調査は精力的に行った。
- ・令和3年度は、「家康伝承調査事業」「蜷塚遺跡保存活用計画事業」「伊場遺跡群弥生時代資料再検討事業」や、静岡文化芸術大学との「浜松の染色の型紙」共同研究事業など継続中の調査研究事業が多く、それらの調査成果の公開は主に令和4年度以降になる予定である。
- ・外部機関との共同研究は行われているが、資料や情報の提供が主体である。

【博物館協議会委員の主な意見・評価】

- ・講座や論文、調査は、本数や件数だけでなく、その質や展示や研究と関連した内容であるかどうかも重要である。
- ・調査研究は長期的な視野で評価する必要がある。また外へ出向く調査だけではなく内部での調査も評価したい。
- ・人員の確保や業務分担の見直しによって、調査研究に従事する時間を増やしてほしい。
- ・学芸員の任用方法の見直しによる人材の確保や、研修の充実、調査研究への資金の確保などが必要である。

【今後の方策】

- ・継続中の調査研究事業を引き続き推進するとともに、外部との連携による調査研究について積極的に検討していく。
- ・業務の分担や内容の見直し、調査研究スペースの環境改善を進め、学芸員業務の調査研究に対する比重を向上させ、その調査研究で得られた成果を展示や講座等によって市民へ還元する。
- ・職員の専門性や使命感を高めるために研修等の積極的参加を促す。

指標 3 展示・教育普及活動

【定量的評価】

No.	内容	単位	R3 目標	R1 実績	R2 実績	R3 実績	考え方・基準・内容等
1	年間観覧者数（本館）	人	43,000	32,540	24,032	29,311	本館合計（アウトリーチを除く）
2	年間観覧者数（分館）	人	28,000	27,248	18,108	21,762	5館合計
3	企画展開催件数	件	6	11	8	7	特別展、テーマ展、小展示
4	企画展の満足度	点	7.5	-	-	7.5	アンケートでの採点（0～10点）の平均値。展示毎に算出し、その平均値。【新規設定】
5	分館における企画展開催件数	件	12	10	13	18	本館巡回展や企画展のほか、分館の所管部署や指定管理者主体の展示も含む。【内容修正】
6	講座開催件数	件	20	-	-	9	館主催の講演会・講座の回数。出前講座は含まず。連続講座は1回。【新規設定】

7	体験事業満足度	%	95	-	-	99	アンケートでの4段階評価(良・やや良・やや悪・悪)の良・やや良の割合。事業毎に算出し、その平均値。【新規設定】
8	学校移動博物館(職員派遣型)開催件数	件	6	10	8	10	学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。
9	教材貸出件数	件	100	114	101	99	学校等への資料や体験学習用具の貸出件数。
10	各種研修生の延べ受入人数	人	300	211	145	77	博物館実習、インターン、職場体験、教職員研修などの延べ人数。※R3インターン中止。
11	常設展内の資料更新回数	回	4	-	-	2	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の展示を含む)。【新規設定】
12	レファレンス対応数	件	40	-	-	31	来館、メール、電話等の合計。【新規設定】

【定性的評価】

No.	評価項目	R3自己	R3委員	考え方・判断基準等
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、市内外の人びとが浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である。	D	B4人 C4人	常設展の魅力向上に取り組むとともに、UD化を進めている。
		B		計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。
		B		展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。
		B		速報展等時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業を行っている。
2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、知的好奇心を満たすことができる場である。	B	B8人	各地域の特色を生かした常設展示が行われている。
		B		各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。
3	学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。	A	A7人 B1人	主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。
		A		学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。
		C		デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。
4	市民に学びの場を提供している。	C	B5人 C3人	来館者が理解を深められるような効果的な講座や展示解説等を開催している。
		B		レファレンスには丁寧に対応し、適切な説明を行っている。
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験事業を行っている。	A	A3人 B5人	展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。
		B		幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。

【自己評価】

- ・観覧者数は、本館・分館ともに新型コロナウイルス感染症拡大による影響から若干持ち直している。
- ・常設展のUD化や展示内容の改善を進めているがまだ不十分である。図や解説が少ない、わかりにくいなどの声がある。
- ・企画展はほぼ計画通り実施したが、文章が難解、図や解説が少ないなどの声がある。
- ・体験学習や学校連携事業は順調に行うことができているが、多数の参加者に対応するため簡略化している面がある。また、子供・家族連れに偏った構成になりがちである。

【博物館協議会委員の主な意見・評価】

- ・対面開催の人数や回数を制限せざるを得ないならば、オンライン配信も同時に行うなどの工夫が必要である。
- ・アンケートの満足度は数値だけではなく寄せられたコメントを重視してほしい。
- ・常設展は、本博物館の強みを再考した上でコンセプトを練り上げる必要がある。魅せるための工夫がもう少し必要。
- ・分館の認知度は低く、常設展示の更新や企画展示のテコ入れなど課題がある。
- ・タブレットが児童一人1台貸与されているので、オンラインでの学習素材の提供など学習支援体制を構築してほしい。
- ・デジタルを活用した展示解説やオンラインでの動画配信などを進めてほしい。
- ・質の高い大人向けの体験プログラムを構築し、他施設との差別化を図ることも必要である。

【今後の方策】

- ・新しい生活様式のあり方について、デジタル技術やオンラインを取り入れながら実施する方法を検討していく。
- ・常設展、企画展の改善については、来館者に伝わりやすい内容・方法となるように、アンケートや内部の検証により行っていく。
- ・講座や展示解説など来館者と対面する機会を増やして、市民がレファレンスしやすい環境づくりを行う。
- ・体験学習は家族連れの誘客のみならず、展示・講座等と関連づけるなど学習効果を高め、大人向けのプログラムなど幅広い層への拡充を検討していく。

指標 4 市民協働

【定量的評価】

No.	内容	単位	R3 目標	R1 実績	R2 実績	R3 実績	考え方・基準・内容等
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	3	2	1	4	自治会や市民団体等との連携による館内・蛸塚公園・伊場公園を利用したイベントなど（連続するものは1件）
2	市民参加型事業の開催件数	件	2	-	-	2	共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数【新規設定】
3	逸品陳列開催件数	件	5	2	0	1	外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数
4	出前講座等開催件数	件	10	7	1	8	依頼を受けて講座に出向いた件数
5	他団体共催事業件数	件	5	5	7	6	展示、講座、イベント等で調査研究は含まない。
6	ボランティア参加延べ人数	人	1,000	849	492	442	ボランティアの延べ活動人数（研修除く）
7	ボランティア養成事業開催回数	回	6	4	6	8	講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数。

【定性的評価】

No.	評価項目	R3 自己	R3 委員	考え方・判断基準等
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。	B	B8人	ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている。
		B		ボランティアにインセンティブ（事業の優先利用や個別サービス等）や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている。
		B		シティブロモーションを意識した事業展開を進めている。
2	博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。	B	B4人	市民団体等の活動に対する支援を行っている。
		C	C4人	社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。
3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。	B	B7人	市民団体等に博物館や遺跡でのユニークメニューでの活用を促進している。
		B	C1人	地域との連絡・調整体制が築かれている。
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。	B	B8人	分館の事業に対する感想や要望を把握し、課題の改善に努めている。
		B		分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。

【自己評価】

- ・展示解説や体験学習、調査事業など、市民が主体的にボランティア活動や事業に参画する場を設けている。若年層のボランティアも一定数存在するものの、その多くが学生や会社員であることから参画できる日数が限られており、主力層の高齢化が課題となっている。
- ・地域のイベントは次第に再開されているが、新型コロナウイルスの影響が残る。
- ・出前講座やまちかど逸品陳列も、新型コロナウイルスの影響が残り、依頼数は多くない。
- ・各分館では地域に根差した事業が展開されているが、若干の地域差は生じている。

【博物館協議会委員の主な意見・評価】

- ・市民参加型の事業は、継続的に実施できるかという問題がある。単年度ではなく中長期的視野で評価すべきである。
- ・ボランティアの人数頼みではなく、質の高いボランティアを着実に増やすことで、実施できる活動を増やすことができる。例えば退職予定の教員に情報提供するなどターゲットを絞った募集方法があっても良い。
- ・若い世代や学生が参加できるボランティア活動を増やしたい。交流の場にもなる。
- ・多文化共生、社会包摂など市の政策との連動を踏まえ、博物館事業に取り込んでほしい。
- ・自治会以外の市民団体も博物館や遺跡の活用が図れるのであれば、周知させる必要がある。

【今後の方策】

- ・意欲的に活動に取り組むボランティアが増えるよう募集方法等を検討する。また令和4年度に創設される文化財サポーター制度の受入れ等も検討し、活動内容の拡充も視野に入れていく。
- ・市民協働事業については、出前講座など、市民の主体的な活動を積極的に支援することで、地域への愛着と誇りの醸成に寄与していく。
- ・社会の課題解決に向けて、博物館の役割の一つであることを意識し、各方面との協働を推進していく。
- ・地域のイベントについては、博物館事業との連携を図るなど、市民主体の文化創造への寄与を続ける。
- ・分館が各地域の課題解決の場となっていくように、引き続き各地域の担当職員や指定管理者との連携を高めながら積極的な事業展開を図っていく。

指標 5 情報の発信と公開

【定量的評価】

No.	内容	単位	R3 目標	R1 実績	R2 実績	R3 実績	考え方・基準・内容等
1	SNS 更新回数	回	200	-	379	215	ツイッター、インスタグラムの更新回数。各週 2 回程度の更新目標【内容修正】
2	HP アクセス数	件	200,000	-	-	75,501	博物館 HP のトップページアクセス数。【新規設定】
3	アップした動画の平均再生回数	回	500	-	-	642	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値【新規設定】
4	報道取り上げ回数	回	200	505	151	84	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数
5	刊行物発行部数	部	17,000	-	-	12,900	館で発行する刊行物の部数（ポスター、チラシ、パンフ等は含まない）【内容修正】

【定性的評価】

No.	評価項目	R3 自己	R3 委員	考え方・判断基準等
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。	A	B8 人	過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段（広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS 等）を適切に選択している。
		C		収蔵品検索システムの、内容の充実と見やすさの改善に努めている。
		B		積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。
2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。	C	B5 人 C3 人	展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている。
		B		観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。
		B		地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心を高めている。
3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。	A	A1 人 B7 人	刊行物（博物館報、博物館だより、博物館情報等）が計画通り発行されている。
		B		HP 等における事業の動画や資料、収蔵品の情報などにインターネットを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。
		B		SNS では事業の開催周知だけでなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。

【自己評価】

- 紙媒体（チラシ、ポスター、博物館だよりなど）やネット媒体（ホームページ、SNS）など多様な手段で博物館の情報を発信しているほか、新聞・テレビなど報道機関への掲載などにより情報が公開されている。来館者アンケートの結果からは、来館者の情報源は紙媒体の方が依然として多いが、市のデジタル化・ペーパーレス推進の政策や、学校への紙媒体の配布もデータによる配布に切り替わってきており、今後はオンラインによる情報発信に移行する必要がある。定量的評価 5 については、この点を踏まえると設定を見直す必要がある。
- 公開されている収蔵品検索システム「ある蔵」は検索のしやすさや見やすさの面で課題がある。

【博物館協議会委員の主な意見・評価】

- 魅力的な動画や HP を作成することを通して目標達成を目指してほしい。
- 発行部数を目標とするのはあまり意味があるとは思えない。評価項目として適切か疑問がある。
- ポスターやチラシは、より魅力が伝わり来館を促すようなデザインを心がけてほしい。
- ターゲット層に情報が届いているかの検証も進めてもらいたい。
- オンラインによる情報発信への移行は必要としても当面は紙媒体による情報発信や、資料発信なども必要かと思う。
- 展示解説やパンフレットなどの多言語化への対応は早急に行う項目のひとつであると思う。
- 人がたくさん集まる場所やイベントでの告知、マスコミを利用した PR がもっと必要だと感じる

【今後の方策】

- 企画展示の開催前に展示資料を段階的に情報発信することで、展示に関する期待を高める。
- 利用が少ない世代や市外の方へ地域の歴史の魅力を伝えられる効果的な情報発信を HP や SNS を中心に推進していく。
- 「ある蔵」の改善を進めるとともに、オンラインでの所蔵資料情報発信の効果的な手段について検討していく。
- 報道発表時の「見出し」の工夫など、多くのメディアに取り上げてもらえるような情報発信の手法を検討していく。

おわりに

本館における事業評価は開始から間がないため、まだ評価項目や目標値の設定等に修正の余地が残されている。各種事業の改善に向けて有効な事業評価となるように、今後も博物館協議会等の意見を受けながら、絶えず見直していく必要がある。